

平成30年度第11回 感染症発生動向調査部会
議事要旨

1 日 時 平成31年2月20日（水） 14:00～

2 場 所 岐阜大学医学部本館 1階 入札室（岐阜市柳戸1-1）

3 出席者

委 員 : 馬場 尚志（岐阜大学医学部附属病院 生体支援センター 副センター長）
大西 秀典（岐阜大学医学部附属病院 新生児集中治療部 准教授）
澤田 明（岐阜大学医学部附属病院 眼科 講師）
オブザーバー: 川部 京子（岐阜市保健所地域保健課 感染症対策係長）
事 務 局 : 居波 由紀子（保健医療課 感染症対策係長）
上津 ひろな（保健医療課 主任技師）
田村 直彦（保健環境研究所 疫学情報部長）
酢谷 奈津（保健環境研究所 専門研究員）

4 議 題 （進行：大西委員）

- (1) 2019年第1週～第5週、1月の感染症発生動向について
- (2) その他情報提供

5 議事要旨

【2019年第1週～第5週、1月の感染症発生動向について】

- ・事務局からの報告と委員のコメントについては資料のとおり。

【その他情報提供】

○感染症発生動向調査 2018年まとめ

- ・事務局（保健環境研究所）から2018年感染症発生動向調査のまとめについて資料のとおり情報提供。（委員からのコメント等）
- ・百日咳の患者が0歳と5歳以上で多いのは、0歳はワクチン未接種、5歳以上はワクチンの効果が低下してくるからか。また、1～4歳で少ないのはワクチン接種の効果と考えられるか。
→（事務局）1～4歳はワクチン接種の効果により患者が少ないと考えられている。国内の患者の疫学情報から、DPTは百日咳感染を予防する効果はあるがその持続期間は短いとみられており、追加接種が必要と考えられている。
- ・米国や英国などでは、百日咳の重症化のリスクが高い乳児を守るために妊婦へのワクチン接種が行われている。
- ・麻しんについて、岐阜と三重、三重と大阪で患者の行き来があったことはわかっているが、ウイル

スの遺伝子解析は行われているか。

→（事務局）ウイルスの遺伝子解析の情報は各自治体から国立感染症研究所に報告されるが、現時点でまとまった情報は公開されていないと思われる。県内患者のウイルス遺伝子解析は当所で行うので、検査担当部に状況を確認して情報共有させていただく。

○感染症関連通知等

- ・事務局（保健医療課）から下記通知等について情報提供
 - ・A型肝炎発生届受理時の検体の確保等について
 - ・保育所での腸管出血性大腸菌感染症（O157）の発生報告
 - ・蚊媒介感染症の診療ガイドランについて
 - ・風しんに関する追加的対策について
 - ・風しんの追加的対策に係る手引きについて（協力依頼）
 - ・麻しん発生報告数の増加に伴う注意喚起について（協力依頼）
 - ・子ども予防接種週間の実施について

（委員からのコメント等）

・風しん追加的対策について、予防接種の対象者の中には、医療従事者など抗体検査をすでに実施している人もいるが、クーポン券は対象者全員に配布されるのか。

→（事務局）基本的には市町村から対象者全員に配布される。岐阜市などの保健所設置市では、これまで抗体検査事業を実施しており、事業による受検者の抗体保有状況を把握しているため、抗体を保有していることが明らかな対象者については配布対象からあらかじめ除く場合もある。

○性感染症定点の見直しについて

- ・事務局（保健医療課）から、性感染症定点の現状と見直し案について下記のとおり説明。
 - ・現在の定点指定状況は、産婦人科と泌尿器科・皮膚科のバランス、病院と診療所のバランスは、厚生労働省が示す目安に概ね合致している。
 - ・しかしながら、患者報告が毎月0人の定点があること、女性の報告患者が少なく実態が把握できていないことなどから、一部定点を見直すことで改善を図りたい。
 - ・患者報告が毎月0人の定点を別の医療機関に変更することを含めて、泌尿器科・皮膚科の2定点を産婦人科に変更したい。

（委員からの意見・コメント等）

- ・定点を変更することについて異論はない。
- ・ただし、本日は性感染症担当の委員が欠席であるため、標榜科による性感染症患者の受診状況の違いなど、専門家に改めて意見を聞いた上で進めた方がよい。

→（事務局）性感染症担当委員に改めて相談し、今年度中に新たな定点を決めるところまでは進めたい。